

### 基本方針案への各委員等からの意見等について

項目	小項目	岩手大学 中澤	対応案	岩手大学 笹尾	対応案	産廃協会 門脇	対応案	資源循環推進課 事務局	対応案
前文									
1. 背景	その他			放射性物質汚染物について、「法令等に基づき～」とあるが、対象物が不明確なので、付属資料(P.3)に記載のように、「既存施設でも受け入れている低い濃度レベル～」のように記載した方が良いのではないか。	指摘どおりに修正				
2. 処理対象物と発生見込量	(1) 自県(圏)内処理と対象廃棄物	1行目「産業廃棄物の処理を行う地域は」理解しづらい	文言修正1	放射性物質汚染物の処理がH33年以降も必要であることについて説明が必要と思われる。	文言修正2				
	(2) 産業廃棄物								
	(3) 災害廃棄物への対応	P3 4行目 残りの容量10万トン？	文言修正3	「いわてクリーンセンターで10年分の埋立容量を確保した上で、残り10万トンを災害廃棄物の埋立に充てるとした」という計算経過が理解しづらいので、付属資料でもう少しわかりやすくプロセスを記述してはどうか。 今後の広域支援について、はじめから他県の災害廃棄物受入を想定して処分場を設計するわけではないので、県内外という区別はせず、今後発生する可能性のある災害廃棄物にも備えた対応が必要であるという趣旨の記述で良いのではないか。	文言修正4				
	その他								
3 施設整備の基本的な考え方	(1) 埋立容量	2段落目 年間4万3千トン→4万4千トン	誤記につき修正	容量に関連して、災害廃棄物の受入割合をどの程度見込んでいるのかの記述が必要と思われる。	文言修正5			「埋立期間を15年」「段階的に拡張が可能な広さをもつ用地」と記述しておりますが、この考え方以外のご意見をお持ちだった場合はご教示願います。	確認

項目	小項目	岩手大学 中澤	対応案	岩手大学 笹尾	対応案	産廃協会 門脇	対応案	資源循環推進課 事務局	対応案
3 施設整備の基本的な考え方	(2) 場所の選定範囲								
	(3) 選定方法	最後の文章候補地を……候補地を選定していくこととする。	文言修正 <sup>6</sup>					コンサルタント会社による抽出作業と市町村からの適地推薦による候補地をベースに選定していく考え方以外のご意見をお持ちだった場合はご教示願います。	確認
	(4) 付帯施設					付帯施設のところに次の趣旨を追加して頂きたい・「有害物質を含む特別管理産業廃棄物など自県内処理ができないものが県外に搬出され処理されている。自県(圏)内処理を一層確保するためにこれらを対象とした処理機能を持たせる必要がある。」	協議	焼却施設や廃熱利用施設等の付帯施設を整備すべきとのご意見をお持ちだった場合はご教示願います。	確認
	(5) 運営主体								
その他	スケジュールについて			住民説明・地元了解については、候補地が1カ所に絞られる前の段階(例えば数カ所に絞られた段階)で行われるべきと考えられる。(逆にいえば、合意形成が十分なされているかも候補地選定の判断基準の1つとなると思われる。)したがって、表の矢印は26年度だけでなく、25年度から引かれるべきではないか。また「住民説明」だけでは一方的な印象を受けるので、「合意形成」という表現も併記していただきたい。	協議				